

平岡塾で身につけた「語学力 + α」



東京・渋谷にある寺子屋型英語専門塾「平岡塾」は、名門中学・高校の生徒が数多く通うこと、東大合格率80%以上など高い実績を上げていることなどで知られている。受験英語ではなく、「本物の英語」「実際の社会で通用する英語」を身につけることを目標に、独自の英語学習法を実践。「英語のセンスを身につけられた」と言う同塾卒業生・今井翔大さんに、平岡塾での6年間を振り返ってもらった。

文構造をつかむことで 素早く文意を把握

平岡塾に通うようになったきっかけを教えてください。

今井 通い始めたのは中1の5月でした。語学はできるだけ早いうちから取り組んだ方がいい、と親には言われていましたが、スパルタ式に教え込まれるようなところには行きたくありませんでした。平岡塾に見学に行ったとき、和やかな雰囲気の中、友達と向かい合って授業を受けるという形式に「自由で楽しそうだな」と。ただ、解説に熱が入って本来の授業時間を優に延長するのは慣れるまで時間がかかりました(笑)。

入塾当初の思い出は？

今井 まず与えられたテキストが「ドン・キホーテ」。中一の、単語の意味もほとんど理解していない状態で、基本文型だけを頼りにとにかく文のSVOCMに線を引きながら読むことで文構造把握を徹底的に鍛えられました。おかげで今ではどれほど難解なテキストに対しても、難しいと感じたことはないですね、読み方は当時と一緒です。

とはいえ、他の生徒より少し遅れて入塾したことは、最初はかなりコンプレックスでした。中学には「お帰りの

問題(授業の終盤にプリントの暗記をさせられ、できた人から帰れる制度)があるのですが、なかなか覚えられなくて最後まで残っていたものです。あの時は語学学習の厳しい一面をひしひしと感じました。

大量のプリントと反復により 英語の基礎を身につける

平岡塾は宿題が多いことで有名です。

今井 毎回大量のプリントが配られ、次の授業でその解説を行います。内容は文法の確認や読解、英作文などさまざまで、重要な箇所は繰り返し解説。また、ただの答え合わせではなく、「なぜ正しいのか」「何が間違っているのか」「間違っているのならどう訂正すればいいのか」まで解説されるので、自分の答えと見比べながら学ぶことができました。

学校の授業と違いはありますか。

今井 レベルも内容も、私は全く別物だと感じていました。学校は皆が理解出来るレベルの授業を半強制的に受けさせますが、平岡塾は基本的に「ハイレベルな英語教育を勉強したい人だけが享受する」場。宿題をやっ

会話・文法・長文読解が 平岡塾の3つの軸

平岡塾の教育の特徴を教えてください。

今井 大きく3つの軸があると思います。1つはネイティブのリチャード先生によるスピーキング。毎回1時間弱程行われ、確実に「聞く力」「話す力」を伸ばすことができます。2つめは文法。大量のプリントで基本構文を丸暗記するなどみっちり学びます。中2の10月までに2通り終わらせ、後は徹底的な反復練習で自分のものにし



平岡塾で使用している教材。ラッセル、オーウェルなど、古典的名著の名文が中心だ。

ていくのです。そして3つめは長文に触れる機会の多さ。中2では「80日間世界一周」、中3でオーウェルの『動物農場』など、質の高い古典的名著をテキストとして与えられます。おかげでどんな長文を示されても動じない読解力が身につきました。

高校になると、哲学書も使いますよね。

今井 はい。高1ではデカルトの『方法序説』、高2ではラッセルの『教育論』を使用。テキストの内容が興味深いものであることはもちろんですが、先生方の解説がおもしろかったです。平岡塾の先生方は留学など海外経

験が豊富で、また英語以外にも専門分野を持つ方が多い。そのため解説の端々に、肌感覚で身につけた英語のニュアンスや、バックグラウンドにある知識がちりばめられているのです。たとえば「ストリートとアベニューの違い」とか「BIGとLARGEの違い」といった言葉について、歴史や文化に対する認識の違いなど本当に幅広く教わりましたね。授業を通して「これだけ知っていれば大丈夫」ではなく「こんなところに注意すると英語の世界はもっと広がるよ」ということを教えてもらったような気がします。

受験への対応力に不安はありませんか。

受験への対応力に不安はありません。

せんでしたか。

今井 高1、2年になると周りが受験を意識し始め、私も「もっと対策が必要なのは」と焦りを感じました。もともと、高3になると平岡塾でも過去問など受験に対応した内容が増え、杞憂に過ぎませんでした。むしろ受験対策を行うようになって、どんな問題にも対応できる英語力が身についていることを実感しましたね。また、クラスに医学部志望者が多かったせい、医学に関する内容のプリントが配られることもありました。受験の先にある「医者としての学び」を垣間見せてもらったことも、記憶に残っています。

英語に抵抗なく触れられるのが これからの自分の大きな強み

大学の授業はいかがですか。

今井 今はまだ教養科目が中心ですが、東大ではグローバル化に力を入れており、英語による授業も開講されています。そういう場で全く戸惑いがないのは、リチャード先生のおかげだと思っています。また、専門課程に進むと英語の文献に触れる機会も増えますし、海外留学、修士論文などで英語力を駆使しなければならぬ場面が多くなるでしょう。大量の英語を読むこと、またインターネット



東京大学理科III類 1年
今井 翔大さん

筑波大学附属駒場中学・高校卒。社会に貢献する仕事として臨床医に興味を持つ一方、「医療の発展が本当に人のためになるのか」という疑問も。現在は医療弁護士を目指している。

平岡塾とは

名門中学・高校の生徒が数多く通い、東大合格率80%超(2014年度188人中169人合格)と高い実績を誇る英語専門塾。合格実績もさることながら、受験のための英語ではなく、一生使える「本物」を身につけられるとの評価が高い。実際、卒業生の多くが高い英語力を活用、各分野の第一線で活躍している。



平岡塾著の『日本の「ダメ英語」を叩きなおす』(主婦と生活社)。真剣に英語を学びたい人のためのバイブルだ。

などで英語の情報にアクセスするなど、英語に接する上で、大きなアドバンテージになっていくと思います。

最後に、中高生へのアドバイスをお願いします。

今井 卒業間近に塾の友人たちと、「平岡で学んだことで、どんな英語にも対応できるよね」と話したことがあります。徹底的に基礎を身につけたからこそ、受験はもちろん、社会人になっても英語は自分の強みであり続けるでしょう。また英語力はもちろん、英語の楽しさや英語世界の奥深さなど、英語のセンスを学べたのが私にとって大きな財産だと思っていますし、平岡の最大の魅力なのだろうと思います。